

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第0191000058号		
法人名	(株)ユニマツ リタイアメント コミュニティー		
事業所名	江別ケアパークそよ風		
所在地	北海道江別市1条3丁目12-2		
自己評価作成日	平成30年8月3日	評価結果市町村受理日	平成30年11月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0191000058-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	平成 30 年 8 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

企業は何の為に存在するのか・・・
 人は何の為に存在するのか・・・
 社会とひとの役に立つためです
 わが社の目指すところは
 人のしあわせを創ることでなければなりません
 私たちは、1人でも多くの顧客を創造し
 その人生を輝かせることによって目的を果たしたい
 人々の輝ける人生の共感と共創と共生が社員、お客様、関係者、そしてすべての人々をしあわせに導くと確信しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

江別駅から徒歩3分、JRやバスも利用しやすく、近くにスーパーや銀行、公共施設が立地する大型複合施設の3階にある事業所です。窓から千歳川や江別の街並みが見渡せる好立地、好環境にあります。施設内には有料老人ホームを中心にデイサービス、ショートステイ、グループホームの各高齢者事業所を有し、地域生活の継続を支える体制を整えています。運営面、特に防災や研修等は施設全体で行い、認知症利用者支援の基礎的部分で連携を密にしています。事業所内は、利用者が自由に両ユニットを行き来し、お喋りをしたり、新聞を読んだり、ソファで休んだりと寛いで過ごす姿が見受けられます。楽しみである食事は、普段の献立以外に誕生日や年中行事、出前の取り寄せもあり、外食はその場でメニューを選び、利用者に好評です。職員交代に伴い介護のベテラン職員が揃い、培ってきたケアサービスに新鮮な視点を加え、チームケアの体制を押し進めています。家族の訪問も多く、良好な協力が得られています。職員は利用者に寄り添い、更にレクリエーション活動の充実にも取り組みたいと、笑顔と安心の暮らし作りに日々努力している事業所です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念とは事業所の指針であり、職員の方向性を導くものである為、日々念頭に置き行動するよう、心がけています。、実践に繋げ共有を図って行く様努力をしています。	利用者の尊厳と安心感のある居場所作りを謳った理念は、玄関など要所に掲示し、職員や利用者、家族、来訪者に事業所の基本姿勢を示しています。職員交代があり、機会を捉えて理念の実践に向け全職員の意識統一を目指しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所と地域とのつながりは暮らしていくうえで必要であり、地域との関係性を取りながら、社会との相互関係を基に成り立つものと考えます。地域交流を積極的に取り組んでいくものと考えます。	町内会に加入しています。地域行事等の参加は多くありませんが、定期的なボランティアや幼稚園児の来訪の際には、楽しく交流しています。今後はより積極的に地域交流や繋がりを強めたいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解は少しずつ進んでは来ているものの支援の方法等まだまだ発信しきれていない点が多くあります。地域の方と交流を持ちどう貢献して行くべきか、方向性を模索して行かなければと思います。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、外部の方の生の声を聴ける方法の一つとしてとても重要だと思えます。それを基にサービスの向上をしていければよりよい施設になっていく様活用できればよいと思えます。	会議には家族や地域包括支援センター職員、知見者の出席で、事業所の現状を報告しています。懸案である職員配置や確保に対し、メンバーから率直な意見や助言を得ています。課題であった家族参加は事前に会議案内をし、招集に繋がっています。	地域密着型の事業所として、更なる交流の足掛かりに会議を活用し、地域住民の参加が得られる働きかけを期待します。また、議事録の掲示と全家族への配布も望まれます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携を図るには、担当者に事業所の考え方を発信し、直面している課題分析と、方法の話し合いを持ち、対話していく事で、協力関係を築きあげていく事に取り組んで行く。	地域包括支援センターの要請を受け、認知症カフェの開催を目指して協働しています。事故報告も含め各種報告や介護認定更新など、行政担当者に報告や連絡をし、協力関係を築くようにしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で「身体拘束とは」とはどういう事か利用者の人権について日々話し合いを持ち、一人一人が理解し、実践していく事が重要と考える。このことで、家族との認識を深めて行き、事業所の取り組む姿勢や工夫を認識していただき、安全かつ、自由な生活を目指していく様、取り組んでいく必要がある。	身体拘束廃止に向け指針やマニュアルを整備し、拘束の無いケアの実践に努めています。職員は利用者に対し穏やかな接遇で、不適切と思われる行為も十分注意しています。外出の希望には会話をしたり、一緒に1階玄関まで降りるなど、気持ちを受けとめるようにしています。身体拘束の弊害について、改めて確認、共有する機会を持つ予定です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を徹底防止しより過ごしやすい場を提供できるよう関係機関と協働して取り組んでいき、早期発見、根絶していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護【日常生活自立支援事業や成年後見人】について学ぶ機会が少なく、必要性や活用には至っていない現状がある。職員や家族に周知するとともに、活用して行けるよう努力が必要と思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び解約時の際は解りやすい説明と納得いくよう心がけ質問にも速やかに答えて行けるよう配慮しています。家族や本人に安心して暮らしていけるよう、常に配慮していく。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する利用者や、家族の意見を率直に受け止め、繁栄させていく場を設けて行き、より良い事業所にしていくよう徹底していく。	家族の来訪時に、日常のエピソードなど利用者の様子を伝えるようにしています。その中で意見を聞くようにし、家族の意見や心情を受け留めたいと考えています。隔月発行の事業所通信に写真を多く掲載し、利用者の生活状況を知らせています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営を職員全員で担っていき、意見交換ができ活気ある職場にしていく機会と努力が必要と考える。このような動きをすることにより、他人任せではなく、一人一人が考え動かし活性化できるのではと思う。	支配人も出席の月例会議は、率直な意見や提案が表出しやすい場になっています。また、毎日の申し送りや、支配人、管理者との個人面談でも職員の意見を聞き、話し合う機会があります。運営は職員全員で担い、互いに協力し合う仕組み作りに取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境を整える事で、1人1人の意欲向上や、良い雰囲気は保たれ、離職者の減少、利用者や家族への信頼がうまれる。ルール決めや役割分担をしていく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	解らない事や出来ない所出来るところを見極め、常に話し合いを持ち不安の無い様に働きかけて行けるように進めて行けるよう心掛ける様取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同業者と交流、他セクション(事業者内にて)との意見交換を活発に行う事でサービスの向上につなげていきたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初見で感じた事や、疑問に感じた事は記録に落とし関係づくりに重点を置き、信頼関係を築くことは、本人にとっての住みやすさ、暮らしやすさに繋がっていくと感じる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人との関係性を築く事はもっともだが、家族との関係性も同じくらい重要と感じており、意見等に耳を傾けていきたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としているサービスはどこか、過剰なサービスはせず、本人の出来る力も見極めて行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームとしての家庭的な雰囲気大切に、介護されているという意識をもたないような、一緒に生活をし、穏やかな老後を過ごしていける環境にしていきたい。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の支援、知り得ている知識を十分に発揮し話しやすい関係性を築いていっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生まれ育った環境や立場を十分に、把握し共感して行く。その上で今どの様な支援が求められているのか、どのような配慮が必要なのか、考えながら行動を起こして行っている。	本人の大切な人や生活習慣の理解に努め、日常会話で話題にしています。殆どの利用者は地元出身者で、自宅への帰宅や墓参、通い慣れた美容室に行くなど、家族と協力しながら馴染みの人や場との繋がりが途切れないよう取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共存し合えるよう支援、しー人一人が充実できる場になる様配慮して行きたい。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了と同時に関係性が終了したと考えずに相談や支援に応じて行く姿勢は大切に持っていきたい。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の考え方や暮らし方を考慮し希望は日々変わるかもしれないが、都度みみを傾けていき、取り組んでいく必要性を感じる。	共に過ごす時間の中で本人に寄り添い、意図的に選択できる問い掛けをして、希望や意向を汲み取るようにしています。家族からも情報を聞き取り、本人の立場に立った検討をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方を十分理解し、本人に話を聴きながら関係性を築き上げて行きたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日何かをして過ごすことは、充実した過ごし方に繋がりがいきいきとした表情が生まれてくる。その中でどう関わって行くかを考えながら支援していききたい。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題分析を行うに当たり、アセスメントやモニタリングを取り、現状に合った介護計画を作成していき、課題分析を話し合っって良い方向性に向かっていけるよう努力している。	できる限り家族同席のサービス担当者会議を設け、本人と家族の意向を尊重した介護計画の作成に努めています。状態変化や定期見直しでは、計画作成担当者を中心に詳しい課題評価に努め、職員の気付きやケアの提案を活かし、安心の生活支援になるよう計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の取り方の勉強会、話し合いを設けていき、気づきや、工夫を実践に活かしていき介護計画で終わらないようにする。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスに繋げて行くために何が必要かを常に考え対応して行ける知識を付ける必要性を感じる。その上で取り組んでいきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は何かを把握し活用できるよう協働出来るよう取り組んでいきたいがその術がまだ見つからず、実践されていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に担当医の協力を得ながら、家族や本人も元気に暮らしていける安心感がある。	利用者の多くは定期的な訪問診療を受け、意向に沿う医療受診を支援しています。治療が長期になる歯科や皮膚科も往診医を確保し、家族と職員が協力して他科通院も対応しています。法人看護師の週1回の訪問があり、情報は看護記録で共有しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療面での適切な支援と、助言は本人や家族や介護職にとっては大変心強い物である為 気づきや情報を密に取って行けるようにしていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際や、退院に向けてのカンファレンス時には必ず参加し関係性を築いていきたい。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた支援の指針は事業所内で十分話し合いを設け全員で同じ方針で取り組めるよう医師との連携を図っていく。	入居契約時に重度化や看取りに関する対応の指針を説明、同意を得ています。過去に看取り支援を行っており、今後も医療関係者との連携を模索しながら、終末期の態勢作りを進めていく事としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の普段の状態を把握し変化に気づいていけるよう職員は日々研鑽して行けるようにする。応急処置や初期対応の研修を行っていく体制を整えて行く。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	「災害は忘れたころにやってくる」を念頭にいつでも対処出来る体勢や訓練をしていく。災害マニュアルもめの付くところに貼っている。	複合施設全体での災害対策、避難訓練に取り組み、消防署の立会いの下、昼夜や地震後の火災を想定した訓練を実施しています。災害備蓄品を準備し、非常の際に適切に対応できるよう、今年度は9月と11月に訓練を予定しています。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共同生活を送るに当たりプライバシーが時々忘れ去られている現状にあることは確かだが、とても大切なことに日々気付ける様工夫が必要だと思う。	人生の先輩として利用者を尊重する姿勢を共有しています。介護職経験が長い職員が多く、言葉遣いや名前の呼び方など、認知症利用者の特性を理解した接遇に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	上記の様に日々過ごす中で些細な事でも自己決定はその人らしい生き方に繋がる様、細やかな声掛けや気持ちを汲めるよう支援して行く。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	しぐさや表情を読み取ることで、意図していることを把握し、希望に沿った支援を心がけていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	幾つになっても、家の中に居ても身だしなみを整える事による意識の違いをわかり支援していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間も準備や片付けの時間はとても貴重に感じます。楽しみながら、おしゃべりのひとときとしています。	昼、夕食は、1階厨房の食事を活用しています。職員も一緒に食事を摂り、和やかに落ち着いた食事環境を作っています。月2回程その場でメニューを選ぶ外食や、希望の寿司やピザの出前を取り入れたりと、食の満足感を工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の記録は一番目にしやすく職員が利用者の状態を把握しやすい一つです。ただ活用や読み取る力や、どう生かしていくべきかは、課題だと思う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を再認識すると共に技術を磨き口腔内の清潔が維持出来るようにしていく。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の自立支援は日常のデータを取りながら状況を把握しながら支援していくことで、トイレにいくタイミングがつかめ自尊心を尊重出来ると思う。	個別の状況に応じた排泄の自立に努め、立位が保てる限りはトイレで排泄支援をしています。排泄が自立している人であっても、その時々の様子の変化や失敗に配慮し、自尊心を支える事を大切にしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防の取り組みについては表にすることで意識出来き、排泄を促すような方法(身体を動かす、食事の工夫、水分の促し等)を導き出す事を考え対処する。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴により清潔の保持や皮膚状態の把握、リフレッシュできるとゆう利点がある。支援は危険も共なる事を周知して行く。	週2~3回を目安に入浴を支援していますが、職員状況によりデイサービスの大浴場を利用し、温泉気分で楽しみに繋げています。3方向からの介助ができる浴槽で、状況に合わせて二人介助するなど、安心安全の入浴を支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを考え休息を取っていただき、腰や背中への負担が無いよう配慮して行く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については医療関係者との情報の共有、薬の内容や目的に合った服用を的確に行える様、確認と、本人の状態の把握に努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割や楽しみがあるという事で生きがいになる場面が多々あり気分転換を図れることが職員一同嬉しい事でもあることを理解する。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出る機会を多く持ち生き活きできる環境づくりをしていく。その為には、家族や、地域を巻き込み一緒に楽しんでいけるよう支援していく。	家族の協力を得た外出や外食、スイーツツアー、行楽地への行事を企画し、楽しさの工夫に努力しています。窓からの見晴らしが良く、季節の移ろいを感じられる環境ですが、日常的に戸外に出るの散歩等は少なくなっています。	併設施設の中庭の散策や、玄関前のベンチでの日光浴など、日常の中で外気に触れ、気分転換の機会作りを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	「認知症の人には困難」との決めつけはせず、出来るところを見つけて行き、その手助けをしていく工夫が必要。機会を作っていく事で希望や力に繋がっていくことを望みます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との電話のやり取りは自由に行える様支援していく。電話できる安心感はとても重要だと思われる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは使いやすく清潔感のある場所を心がけている。またリラックスでき環境が最適かどうかの配慮は常に行っている。	事務室と玄関を中心に左右にユニットが配置され、回廊式で利用者も自由に行き来しています。リビングや廊下は広く、絵画や利用者の作品などの装飾は華美にならない掲示です。手製の座布団、鉢物や生花、新聞等が視線に入る位置に置かれてあり、家庭的で居心地良い環境作りをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分ではお互いが共存できる様且つプライバシーに配慮するレイアウトが工夫されているか見ていく必要がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は1人1人がくつろげるよう今までの生活の延長上にあるような環境づくりに努め安心して生活が出来ているか落ち着いて暮らす事が出来ているかを見極める必要があると考えられる。	程よい広さの居室には、動線を考慮して家具を設置し、クローゼットに日用品が収納されています。使い慣れた家具や思い出の品の持参を勧め、安心できる居場所作りに努めています。大切な仏壇や柳行李、鏡台などの持参もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の方や、杖、歩行器を使用している方が自由に行き来出来る様な動線を考えるとともに 危険回避も視野に入れ事故や転倒の無いように配慮して行く。		